

## 会 議 記 録

会議名称	第3回社会教育委員の会議
日 時	令和3年12月16日（木）午後1時08分～午後3時02分
場 所	中棟4階 第2委員会室（オンライン会議）
出席者	委員 山口、小澤、荻上、南、檜枝、赤池、天野、内山、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、社会教育推進担当係長（社会教育主事）、教育連携担当係長（社会教育センター社会教育主事）、管理係主査
配付資料	<p>&lt;配付資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和3年度第2回社会教育委員の会議 会議記録（案）</li> <li>2 社会教育センターの指定管理者制度導入に向けた進め方について</li> <li>3 「杉並区教育ビジョン2022 推進計画」の策定方針について</li> <li>4 杉並区教育ビジョン2022</li> </ol> <p>&lt;参考資料&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 広報すぎなみ10月29日臨時号</li> <li>2 杉並サイエンスコミュニケーション 4号</li> <li>3 青少年委員だより 第77号</li> <li>4 区民参加型展示「荻窪の記憶Ⅳ清水・桃井・今川の歴史」</li> <li>5 令和3年度杉並区立男女平等推進センター啓発講座</li> </ol>
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会議録について</li> <li>2 社会教育センターの指定管理者制度導入に向けた進め方について</li> <li>3 「杉並区教育ビジョン2022 推進計画」の策定方針について</li> </ol> <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 検討課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「杉並区教育ビジョン2022」をもとにして （参考）新基本構想、新総合計画・実行計画等該当箇所</li> </ul> </li> <li>2 今後の予定について</li> </ol>

## (意見要旨)

## I・報告事項

- 議 長 本日の会議は、オンラインなのでご協力をお願いしたい。  
報告事項は三つあるが、まず会議録について。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 前回の概要版（案）を今月中に整理したいので、何かあれば事務局宛てにご連絡ください。
- 議 長 2番目、社会教育センターの指定管理者制度導入に向けた進め方について。
- 生涯学習推進課長 すでに今年の4月から改修に向けて、社会教育センターは閉館していますが、基本的には貸し館業務を指定管理にして、事業等については直営ということで考えています。公募型プロポーザル方式で、令和4年の3月に指定管理者の候補者を選定し、議会等の手続を経て、令和5年の2月には改修工事を竣工させ、5月から施設の供用を開始することとしています。
- 議 長 3番目の報告事項「杉並区教育ビジョン2022推進計画」の策定方針について。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 令和4年度をスタートとする新たな教育の分野における行動計画という位置づけですが、「杉並区教育ビジョン2022推進計画」を策定に向けて作業を進めています。今回「杉並区教育ビジョン2022」では「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を、行政だけでなく、様々な人たちと共に、区と区民一人ひとりがという表現をしていますので、このことを十分に配慮しながら進めています。本日の議論に関わるという意味では、教育ビジョンの実現に向けた一つの取組方として、杉並区基本計画や総合計画で挙げた事業なども活用しながら、この目的を達成するためにどうやっていくのか、このことを示すというのが推進計画の大きな役目になると思われます。本日、皆様からいただいたご意見なども踏まえて、積極的に中身の検討を進めていきたいと考えています。

## II. 協議事項

- 議 長 では、杉並区教育ビジョン2022を基にして推進計画をつくることになっているので、社会教育という側面から教育ビジョン2022を実現していくために、具体的に何が考えられるのか議論していきたい。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 今回の杉並区教育ビジョン2022は、極めて概念的な内容にまとめられています。一人ひとりが、自分の立場でどんどんやれることを一緒に考えてトライして、その結果、みんなの幸せをみんなで作るような方向性を示すというあたりが、大きく前と違う点だと思われます。地域の中で課題となっているものを取り上げて取組を進める人を支援するために行政は何をするのか、教育ビジョンを踏まえて、それぞれがどんなことを感じているのか、ご意見をいただきつつ行政がすべきことの明確化ができればと考えています。
- 議 長 社会教育は何ができるのか、我々社会教育委員が、一人の区民としてでも良いが、あるいは行政にお願いするというだけでもいいので、率直に皆さんの現時点でのお考えをお話しいただきたい。
- 委 員 社会教育の基盤は、お互いの人権をどう守り合うかにあるのではないか。もちろん学校教育でもそういうことをやってはいるが、焦点を絞った取組ができないか。行政としても何か一つポイントとして提示できる

- ものではないかなと思う。
- 委員 教育ビジョン2022はみんなの声を聞いてつくり上げていくという姿勢と、「みんなのしあわせを創る」というようになったのが印象的だった。推進計画としては、これをやるという分かりやすいものをつくり、その中でやりなさいという形にしてはいけないと思った。誰もが当事者として生きていくための教育ビジョンであるならば、枠組みを示して推進計画をつくるとはいえ、人々の声を聞いてより良いものをつくっていくという形の計画であるといいと思った。
  - 委員 それぞれの幸せの形、いろんな価値観があつていいということがうまく行き渡らせられないのは、予算の問題、制度の縛り、広報活動の問題があるからだと思っている。この三つをうまく整備していくことで杉並区全域に行き渡らせることができるようになればと思っている。何かを策定し、それに基づいて子どもたちを育てていこうというよりは、制度を変え、予算をつけ、広報を行政がやっていくということの方がいろいろな力を活用できるようになると思う。
  - 委員 内閣府が出している「子供・若者インデックスボード」で、居場所感とウェルビーイングの関係ということで指標を調べているが、居場所が複数あるということが、ウェルビーイングを高めることにインパクトを与えているということが分かっている。1人の人が複層的にいろいろな場を持ち、状況に合わせてどこを主にしていくかというチョイスができるように受皿をつくっておくことが求められる。国の中でも、どういうふうに目的・目標化するかということのKPI指標というのは当然つくられなくはいけなく、目標に杉並区としてブレークダウンしていくことが必要なのではないかと思った。
  - 委員 今まで自分で幸せということを考えていても、正面切って言ったことはあまりなかった。最終的にベースになるのは、幸せということがそこにあると気づかされ、それが学校教育や社会教育の一番根底にあるものだということを示していただき、新たなスタートになれると思った。学校のあり方、教育を受ける方と教育を提供していく方の姿にいろいろな形のものがあつても良いということを共有していくことが大事だと思っている。
  - 副議長 国際会議で聞いたが、ヨーロッパで玩具などをつくる際には男女別はもうしていないとのことであつた。翻って美術系の女子大が果たせる役割について考えさせられている。個人的にはピンクが割に好きな色だったが、それは教育の中でそういうふうにしむけられてしまったからなのか、それとも生まれたときから本当に好きだったのか。そのことをこの間からずっと考えていて、ぜひ、参考までに他の委員のご経験やご意見をうかがいたい。
  - 委員 今の小学生のランドセルの色は非常に多様である。かなり教育の影響が大きいと思っている。
  - 委員 子どもが国立小学校だったので男女関係なく全員一緒のランドセルで黒だった。みんな一緒だということを確認されているというように思っていた。それ以外にクラスごとのカラーがあつて、男女関係なくそれを全員使うというところがすごく平等で、フラットな関係であるということの意思表示を枠組みとして認められていたのは、今から思えば非常に大き

- かった。
- 委員 性には、いま16分類ぐらいあると言われていて、二つに分ける必要は確かになく、自分たちで選べるようになるかと思っている。
  - 委員 小さい頃から子どもたちに対して、こちらが思っている価値観をずっと伝え続けていることになってきたように思っている。これからそういう思いがない方が増えてくるほど選択が増えてくるかと思っている。
  - 委員 いろいろなものを性で区別しないのは、すごく大事だと思う一方、性で区別することそのものがそもそも間違っているみたいな感じが、強くなり過ぎるのもどうかと思うところがある。
  - 委員 いろいろな差別の根源に埋め込まれているがために、発展性を阻害する要因になっていて、差異が差別や区別につながるとどちらが優位でどちらが劣位みたいな関係がずっと続いていくことになり、歪みが生まれる社会になるのではないか。対等な関係ということが今回の教育ビジョンにもうたわれていていいと思った。
  - 議長 日本の伝統的な文化として、男性と女性を二元的に分けるというのがある。こうした文化的な規定性から教育が影響を受けているという面がある。他方、教育には、文化を変える役割もしている。だから、伝統的なもの、文化によって規定されているという面と、教育によって文化そのものが変わっていくという面と、二通りあると思う。ところが、伝統的な文化というのは、昔からこうやっているのだからという論理があり、合理的な理屈はなかなか通用しない。だから、何で男の子が青で女の子が赤ということになのか、それを合理的に説明できるわけがない。そういう非合理的な面について、これからの教育が果たす役割というのは結構大きいと思う。
  - 副議長 各委員のお話をうかがい、参考になり感謝したい。最近のできごとでは、ワクチンを打つか打たないかという問題が身近に出ている。コロナによって二極化された問題を、対話だけで本当に分かり合えるのかと考えていることがある。
  - 委員 今回の教育ビジョンは、社会教育にとって追い風の教育ビジョンではないかと思うが、CSに話を振ってみても、概念的過ぎる、教育の目的は本当に幸せをつくることなのかと冷めた反応が入ってくる。そこで自分たちのできることをして、携わっているすぎなみ大人塾のOB会で、この教育ビジョン策定の審議会で会長をされた牧野先生の講演会を区内で行うことにしている。また、区総合計画に記載もあるように、学校が地域に5時以降開かれるというようなことができれば、狭い地域において安定的に社会活動ができる場の確保が期待できるので、行政がうまくリードして実現してもらえると社会、地域活動が活発になっていくと期待している。
  - 委員 青少年問題協議会で配られた資料の中で、教育ビジョンと非常に関連すると思ったのが、居場所づくりの大切さと、永福にオープンしたコミュニティふらっとのように、一つの施設にいろいろな機能や目的を持たせるというのが非常に大事な考え方だということがある。一人ひとりがいろんな面を持っていて、必ずしも主があるわけでもないようなところでまで深めて認め合っていけるようならば、一人ひとりの違いを認め合うということの意味もさらに変わってくるし、施設運営や施策の在り方みたいなところにも、だんだん伴ってくるような形になると思う。

○議長 私はこのビジョンの考え方は基本的に賛成で、VUCAの時代と言われていて、教育観をもう一度見直すべきだというのはそのとおりだと思っている。基本的に本当に自由な活動を保障していくものとしての社会教育行政というのがあって、それをVUCAの時代にどういうふうにはめ込んでいくのか、どう位置づけていくかということかなと思って話を聞いていた。主従の関係というのは、社会が運営されていく以上どうしても出てくると思っているが、大事なことはそれを固定化しないことで、社会教育によってそのダイナミズムをつくっていくという社会教育事業とかはもっとあっていいと思った。

そろそろ時間なので、整理しつつ次回以降も重ねていくこととしたい。連絡事項があれば事務局からお願いしたい。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 会議の日程としては、1月から3月の間にもう一度開かせていただきたいと考えている。

○生涯学習推進課長 基本構想も、これまで社会教育、生涯学習がどこに位置づけられているのか、判然としないところもありましたが、社会教育士だけではなく、歴史、文化に関わることもきちんと位置づけられています。教育ビジョンについても、学校教育だけではなく、今まさに社会教育、生涯学習に対する追い風が吹いていると思っています。「前の推進計画とあまり変わらなかった」と言われることのないよう、教育委員会を挙げて推進計画に取り組んでいきたいと考えています。

○議長 これで終了する。皆さんどうもありがとうございました。